

第2章

稲城市の生涯学習推進計画

- ◆平成7年「稲城市の生涯学習の振興のあり方について
～であい・ふれあい・まなびあい～」(提言)
- ◆平成8年「稲城市生涯学習推進計画」策定
- ◆平成14年「第二次稲城市生涯学習推進計画」策定
- ◆平成24年「第三次稲城市生涯学習推進計画」策定

Inagi あいプランの 基本コンセプト

Inagi あいプランの基本コンセプト

通称	平成8（1996）年度～ Inagi あいプラン（=つなぎあいプラン）		
基本理念	平成8（1996）年度～ 自己実現・共生・稲城らしさ		
テーマ	平成8（1996）年度～ わたし Iらしさの発見、わたし Iのまち“いなぎ”の創造		
（基本目標）サブテーマ	平成8（1996）年度～ 第一次計画 であい・ふれ愛・まなびI 伝えあい・知らせあい つなぎあい	平成14（2002）年度～ 第二次計画 “I”からはじまる “つなぎあい”、 “う え”をめざした “まちづくり”	平成24（2012）年度～ 第三次計画 “いかしあい・はぐくみ あい・にないあい” の絆づくり

“つなぎあい”から“にないあい”へ

Inagi あい スラン

3rd

第三次稲城市生涯学習推進計画



©K.Okawara・Jet Inoue

稲城市イメージキャラクター「稲城なしのすけ」

平成24（2012）年3月

稲城市

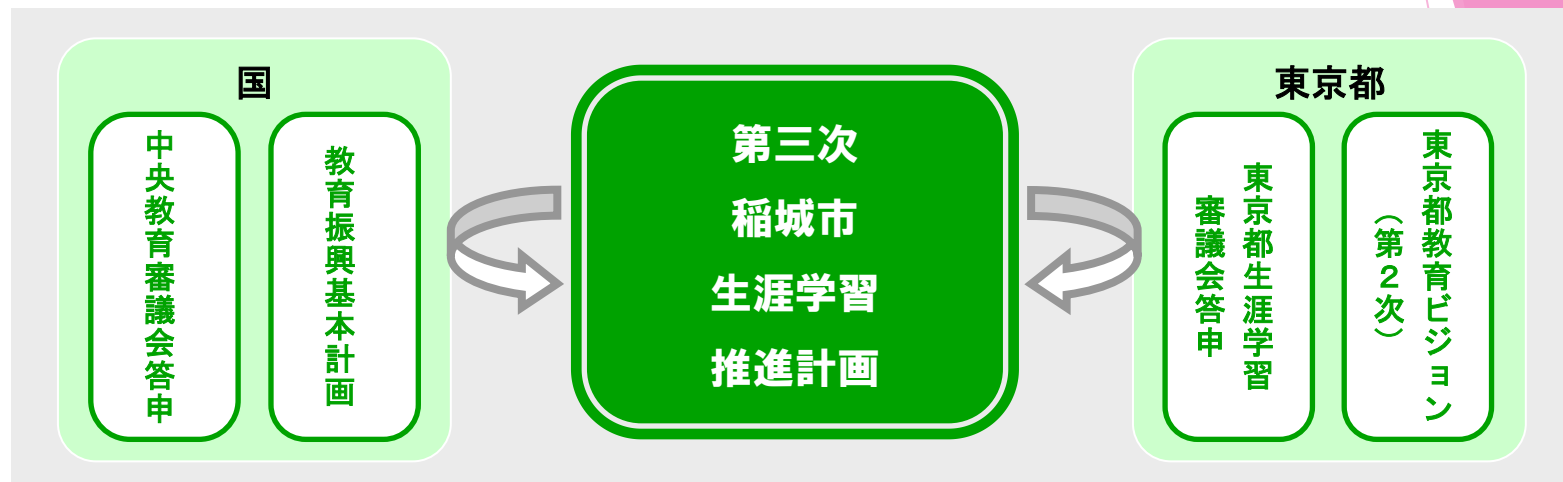
生涯学習についての行政計画化の前提

計画策定の趣旨

稲城市では、平成7年の「稲城市の生涯学習の振興のあり方について～であい・ふれあい・まなびあい～」(提言)を受け、平成8年に「稲城市生涯学習推進計画」、平成14年に「第二次稲城市生涯学習推進計画」を策定し、市民と行政との“つなぎあい”を促進してきました。

本計画は、第一次及び第二次計画における成果と、計画を推進する中で浮かび上がってきた諸課題を踏まえながら、これまでの理念を踏襲して策定します。

本計画の策定における前提



憲法・法律関係

生涯学習振興法

社会教育法

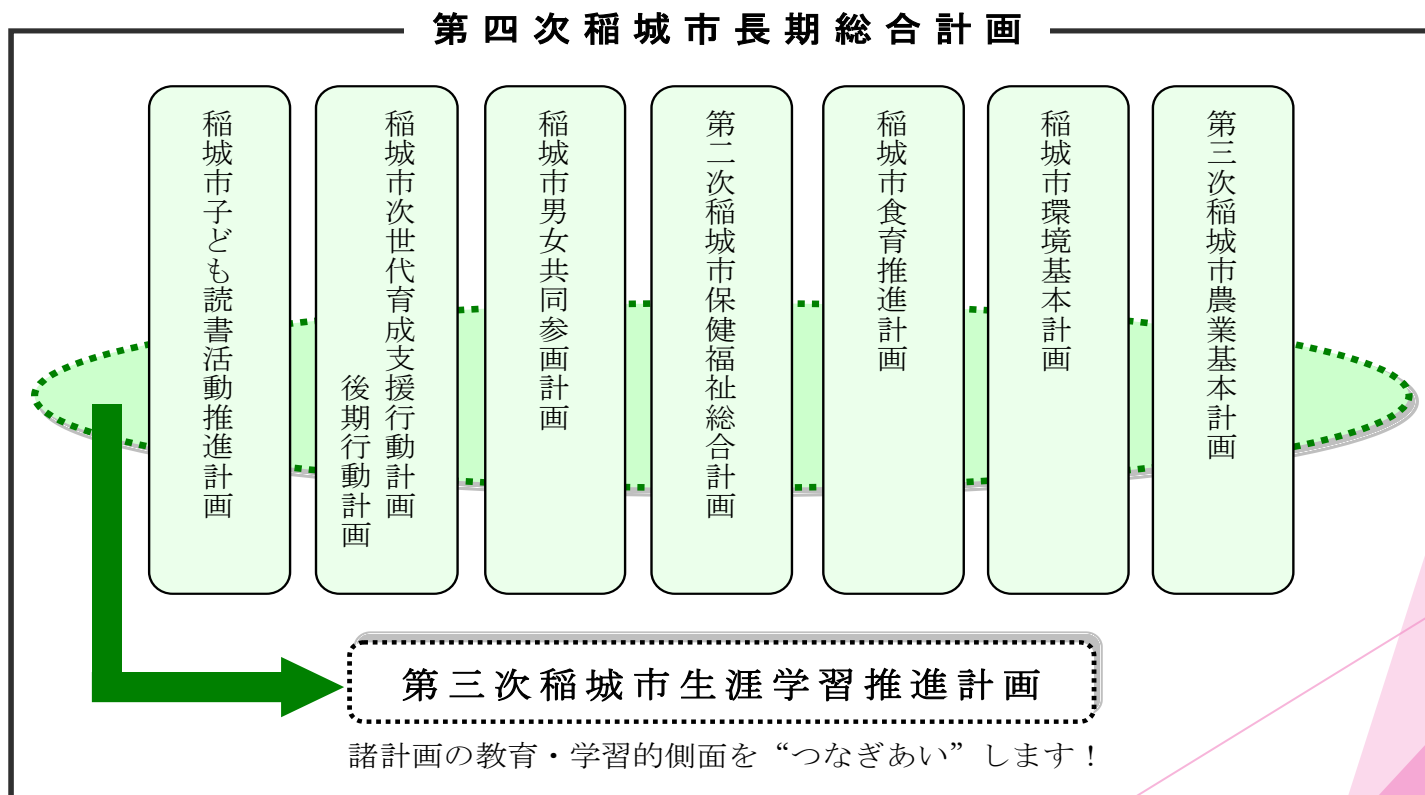
学校教育法

教育基本法

日本国憲法

生涯学習についての行政計画化の前提

計画の位置づけ



学習支援の7つの視点

- ① 「いつでも・どこでも・だれでも・なんでも・どのようにでも」の視点
- ② ライフステージを基準として整理する視点
- ③ 現代的テーマを基準として整理する視点
- ④ 重点的に支援するべき学習者を基準として整理する視点
- ⑤ 地区・地域ごとの固有の課題に基づいて整理する視点
- ⑥ 「学びの基本」を大切にする視点
- ⑦ 自分自身を学ぶことを大切にする視点

生涯学習の内容

(1) 生存確保課題

人間が、自らの生命の維持や生存のために学ばなければならない内容

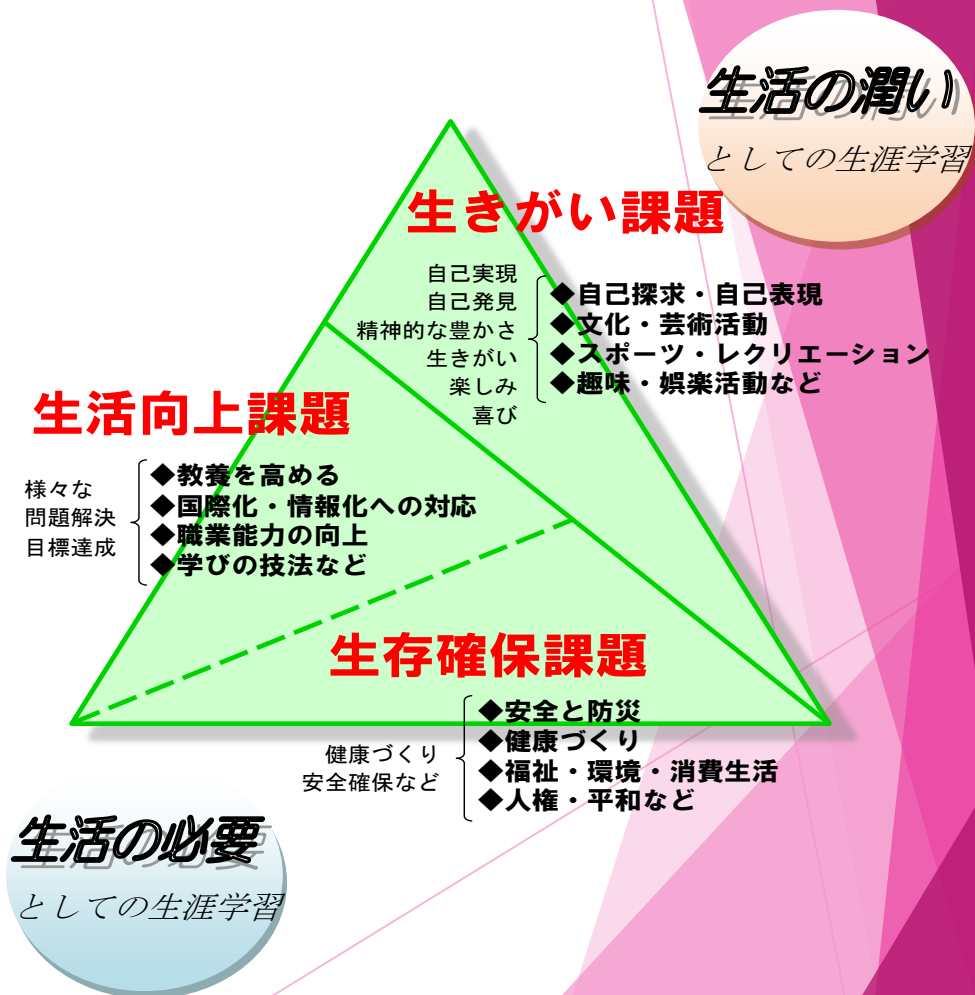
(2) 生活向上課題

人間が快適さや便利さなどを求めて生きていく際に必要とされる内容

(3) 生きがい課題

生きがい及び生きる喜びを発見・創造することにより幸せを味わうことにつなげていくための学びの内容

生涯学習の課題を構造的に示した三角形



“にないあい”の重点プロジェクト



1 “にないあいシステム”の充実

- (1) 「いなぎICカレッジ」の充実
- (2) 世代をつなぎあう学びの充実
- (3) 学びを生かしあう機会の充実



2 “にないあい人”

養成プロジェクトの推進

- (1) 子育てサポーター
養成の継続
- (2) 子ども・若者サポーター
プロジェクトの推進
- (3) シニアサポーター養成
プロジェクトの推進

3 “にないあい支援基地”づくりの推進

- (1) 地域づくりの拠点としての
支援基地づくりの推進
- (2) 情報提供・相談体制機能の充実
- (3) 支援基地どうしのネットワーク化の推進

第一次・第二次計画の成果

図書館ネットワークの整備（平成20年～）

近隣自治体との公共施設の相互利用として、京王線沿線7市図書館連携に関する協定を締結し、施設の広域利用を促進



中央図書館(平成18年)

- 東日本では初となるPFI方式により図書館を整備、コスト削減とサービス向上を実現
- 市の財政負担を20年間で約18.5%(約10億円)縮減
- 施設規模 ; 約3,485㎡ 蔵書規模36万冊
- ICタグによる自動貸出機、自動書庫、棚アンテナシステム、年間345日、9時～20時開館
- 「ITジャパンアワード2009」準グランプリ受賞



i プラザ（平成21年）

- 京王相模原線「若葉台」駅前に、生涯学習施設、児童・青少年施設、図書館、市役所出張所等を有する複合施設を整備
- P F I 方式により、市の財政負担を20年間で約11%（約5億円）縮減
- 施設延床面積：4,962㎡（民間施設含む）地上2階、地下2階建て
- 410人収容ホール、スタジオ、会議室等を併設

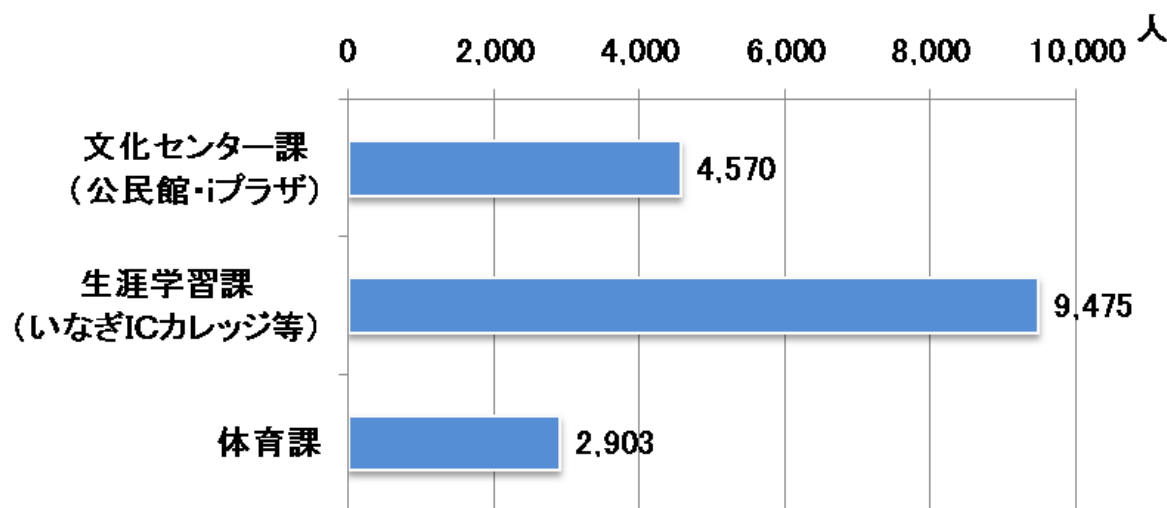


市民の生涯学習の活動状況

主な生涯学習事業の参加状況

平成22年度は、教育部主催の事業（講座、教室）だけでも延べ約17,000人以上が参加

主な生涯学習事業の延べ参加者数(平成22年度)



いなぎICカレッジの誕生

1. 推進計画に基づき、ボランティア理事が主体となり企画運営するカレッジが実現！
2. 他の自治体のように、講師謝礼や事務局経費等に多額の税を投入することができないため、受益者負担（受講料）のカレッジ運営を実現！
3. 市は講座の会場確保と、広報、対外的大学等の窓口となることを、理事会に約束。